

令和7年度第3回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

日 時	令和8年2月18日（水） 10時00分～12時20分
会 場	県土整備部 部会議室（WEB会議システム併用）
出席委員	村野委員（会長）、八木澤委員、松井委員、盛本委員、渡部委員、澤田委員

1 【事業評価】再評価実施事業対応方針（案）に対する意見の 取りまとめ

① 205 河川改修事業 一級河川 飯盛川

- 委員： 計画規模を1/3から1/10に変更したことにより便益が増加したとのことだが、もし1/3のままだったらどうなっていたのか。
- 事業課： 計画規模が1/3のままだった場合、調節池整備、排水機場の増設が不要になるため、B/Cは令和元年再評価の結果と変わらない。
- 委員： 1/3の雨ではどのような結果になるか、シミュレーションの結果を教えてください。
- 事業課： 令和元年再評価のB/Cと基本的には同様となるため、1/3のシミュレーションは実施していない。
- 委員： 令和元年の欄にある評価はいつ時点の評価の数値か。令和元年評価から今回の評価で令和元年の残事業からするとだいぶ減っているが、どのような理由があるのか。
- 事業課： 令和元年再評価の欄の数値は、令和元年時点の評価の数値が入っている。前回評価はH6～R18までの評価であり、今回はH18～R18の評価としたため、H6～H17までの評価は対象にしていない。今回は、令和元年と令和5年の2つの事業について河川全川（河川単位）を対象に氾濫シミュレーション等を改めて行い、評価を行ったものである。
- 委員： R元年・R5年の便益の和と、R7の便益には、約100億円の差があるが、便益が重複しているのではないか。
- 事業課： 今回の評価は、2つの事業を合わせて河川全川（河川単位）での評価としたため、便益が重複しないよう、改めて全川を対象とした氾濫シミュレーション等を行い、評価を行っている。ご指摘のとおり、令和元年の評価と令和5年の評価では、便益が重複しているが、今回の評価では全川評価とし、氾濫解析も全川を対象のモデルで行い便益を算出しているため、便益の重複はなく、精度の高い評価となっていると考えている。
- 委員： 1/3は時間雨量となっており、1/10は日雨量となっているが、どういうことか。また、年超過確率1/10程度の降雨とあるが、これは実績値となるのか。
- 事業課： 1/3は県の河川整備の全体としての考え方であるが、計画降雨を1/10規模としたのは、令和元年東日本台風の被害を受けて、河川整備計画を見直したことによるものである。計画降雨は実績降雨（日雨量）を用いて1/10の降雨を推定して計算している。なお、令和元年東日本台風の実際の降雨は、1/60であるが、この実績降雨で整備をするると下流に影響が出るため、下流の整備計画と整合を図り、年超過確率1/10程度の降雨で整備を進めている。

○対応方針（案）について

会 長： 継続するという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。

委 員： 異議なし。

② 206 事業間連携砂防等事業 倉掛沢

委 員： 精神的損害額の単価更新に伴って便益が大幅に増加しておりB/Cが大きくなりやすくなると考えるが、「B/C=1.0」を基準に事業実施の判断を行うことについては変える必要があるのではないか。B/Cが高い事業から優先的に実施するという考え方もあるのではないか。

事業課： 事業実施の基準については「B/C=1.0」を超えていることがひとつの基準だと考えている。優先順位についてはB/Cだけでなく保全対象の状況も踏まえ検討させていただいている。

委 員： 事業費が約3倍に増加した内訳を教えてください。

事業課： 事前評価時事業費からの増額内訳としては、管理用道路工増額約1.1億円、その他詳細設計に伴う付帯施設の増額が約4千万円、物価高騰に伴う増額が約9千万円を計上している。

○対応方針（案）について

会 長： 継続するという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。

委 員： 異議なし。

③ 207 事業間連携砂防等事業 下赤工川

委 員： 周辺社会環境の変化として飯能市の人口動態を評価しているが、当該事業の周辺環境に関係あるのか。

事業課： 狭い範囲の人口動態では変化量が大きくなり傾向がつかみにくくなる場合もあると考え、ここでは飯能市域で評価している。今後は各事業に適した評価方法を検討させていただく。

○対応方針（案）について

会 長： 継続するという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。

委 員： 異議なし。

④ 208 大規模特定砂防等事業 下日野沢

委 員： 町道の付け替えに伴う費用増はないか。

事業課： 費用について大きな変更はない。

委 員： 事業期間が大幅に延伸しているが理由を伺いたい。

事業課： 町道付け替えにともなう町との協議に時間を要した。事前に関係者との協議を始める等事業期間の短縮に努めている。

委 員： 事業完成時期が遅れることで便益に影響はないのか。

事業課： 評価時点による影響はあるが、便益に大きな影響はない。効果が発現できるように早期完成に努める。

○対応方針（案）について

会 長： 継続するという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。

委員： 異議なし。

⑤ 209 道路改築事業 一般国道 140 号（大滝トンネル）

委員： 事業実施のマイナス面として記載されている「沿道施設への影響」について、山梨県側の坑口付近に道の駅があるが、利用者の減少などの影響はあるのか。

事業課： 大滝トンネル開通後は主交通が大滝トンネルとなる。大滝トンネルの利用者が道の駅に立ち寄る場合、現道を若干折り返す形となるが、案内看板の設置等により、影響を抑えることができると考えている。

○対応方針（案）について

会長： 継続するという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。

委員： 異議なし。

⑥ 301 土地区画整理事業 八潮南部西地区

委員からの質問・意見なし

○対応方針（案）について

会長： 継続するという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。

委員： 異議なし。

⑦ 事業評価全般に関する附帯意見

会長： 再評価において、B/Cの値が1を超えることを事業継続の判断基準とする考え方については、慎重に取り扱う必要があると考えている。B/Cの値は、原単位の改訂などによって大きく変動する可能性を持ち合わせており、定量的指標としては一定の不確実性を含むものである。そのため、社会的意義や公益性の観点も鑑みた上で、適切に事業継続の判断をすることが重要である。

したがって、本意見を事業評価全般に対しての附帯意見としたいが、よろしいか。

委員： 異議なし。

2 【事業評価】 事後評価実施事業の報告

① 2001 床上浸水対策特別緊急事業

参考意見は以下のとおりである。

委員： 事業の効果の発現状況において、他河川を対象とした事業では、事業実施後には浸水面積がほぼなくなっているケースが多いように思うが、今回は浸水面積が多く残っているのはなぜか。

事業課： 通常の河川改修とは異なり、本事業は床上浸水が頻発している地域について、早急に対策を講じ、床上浸水被害を解消することが目的である。そのため、床上浸水被害は事業実施後に解消するが、一部の未整備区間で床下浸水被害が残ることから浸水面積が残っている。

3 【計画評価】 事後評価実施事業の報告

① 2-53 身近な生活道路の安心・安全を確保する市町村道等の整備（第3期）

参考意見は以下のとおりである。

委員： アンケートは重みづけしていないのか。

事業課： 重みづけはしていない。市町村には100票集めてほしいと依頼しているが、路線によって多少差が生じている。なるべく票数を揃える努力をしている。

委員： 今後もアンケート調査の結果を定量的指標として用いる場合、調査結果の信頼性に留意してほしい。

事業課： 了解した。

① 2-54 地域の魅力と活力を高める市町村道等の整備

委員からの質問・意見なし